

第5 内装制限の取扱い◆

消防法令上に規定する壁及び天井の室内に面する部分の仕上げの取扱いは、次によること。

- 1 建基法令上、床面からの高さが1.2m以下の部分が除かれているが、消防法令上にあつては、床面から規制の対象範囲となること。ただし、内装制限となる面において10分の1以下となる部分は、内装制限の対象から除くことができる。
- 2 「室内に面する部分」とは、建基法第2条第4号に規定する居室及び風呂、便所、洗面所、駐車場、機械室、倉庫その他これらに相当する室並びに廊下、階段その他の通路の壁及び天井の室内に面する部分をいう。
ただし、収納のために人が出入りする形態を有しない収納庫内及びユニットタイプの浴室内の壁及び天井については、この限りでない。
- 3 天井まで達しない間仕切壁で、当該間仕切壁の高さが高い場合（高さがおおむね2m程度以上のもの）や床に固定された場合など、仕切られた空間が二つの別空間となるように設けられた間仕切りは、内装制限の対象として取り扱うものとする。